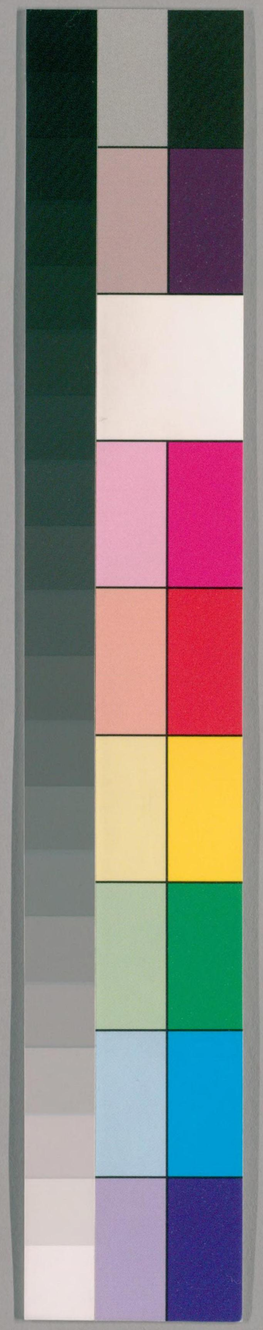
守貞漫稿

巻 十一

寄
30
15

別圖

13
9/30
41



国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

守貞謾稿巻之十一

喜田川季壯尾張部守貞誌

武衣ニ櫛ス事ヲ云条ニ寛保中ヨリ上手ノ細工人出来リ色能キ水牛ニ鼈甲ノ黒班（クロフ）ヲ入テ上鼈甲ノ紛ニ賣ル始メ價銀二十匁位ニテ

贋敗

巧ミニ贋タリ云々　是鼈甲高價トナリ故ニ行々シ嬉遊笑覧ニ上ノ文ヲ引テ上ベツカウ賣ルト云レ尤朝鮮鼈甲ニテノ紛ヒ作ルヿハ其先ヨリアリ云々

延享仲　我夜ハ延享中此風流布ス無髪ニテ髪質ヲ横ニヒラカセ鬘目小ク百會ノ頂キヘアゲテ結ブ襟ノ汚レザルヲソヤノアトスヽ真向キ女子ノ面ヲ畫セリト雖ト前ニハ如ク傳写ノ誤ト見ル故ニ追考此時ノ古風ニ據テ畫スベシ

日書日下ハ蒔繪ノ櫛笄ト類ス　享保ヨリ延享ニ至リ多ク仕出セリ　さく

半貞云下ハ蒔繪ト云ハ金分ニ非ル錫及ビ鍮鈴ノ蒔繪ナルベシ今モ

江士山等專ラ製ス

我夜日延享元年金銀臭御停止其後象牙角鼈甲錫等ニテ製シ用ヲ云ヽ　是ハ元文寛保頃銀梅枝ノ簪ヲ用ヒタルニ代ルナリ

吐

寛延中

延享元年上府命ニテ金銀具ヲ禁ル寛延中ニ至リ制弛ミテ再用ヒ〻シ

寛延宝暦以来女ノ髩一段高クス号テ差髩ト云因云延宝以来ハ髩長キ故ニ下ヨリ抱フル具アルベキシ傾城野郡談ト云本ニ歌以五尼ノ詞云当世ノ女衆ハ厨女ノ糸ツムリノ迄玲瓏ノ珊瑁櫛幅廣ノ笄常夜ノ簪水牛ノ髩吐ゲ線銅入レハ子元結ナシ髩止ハ髩上ノ誤シ此具ヲ享保ニハ髩差トアリ今ト同名シ野郡談ハ自笑其頃ノ両作シ

寶暦中 賊緒手巻ニ 宝暦頃 象牙櫛幷ハヤリテ蒔繪ニ名ヲ奇麗ニテヨカリシナリ 象牙櫛ハ古モ有ミ 近クハ元文中モ用ミ

櫛押ト云者 当時用ミ 嬉遊ノ云 宝暦頃ナリ 櫛押ヘノ出来ニモ其頃ヘナリノ櫛押ヘハ帽子針ノ頭ヲ曲タルヤウニ作リ頭ノ丸キ所ニ紋ナドヲ彫物ニスルシ 櫛ヲ起シテノ置タメニ櫛ノ前ニ竪ニ差置シ 針ハ銀ニテ作シ

昔ハ簪也ラズ一本ヲ差ス 大畧 宝暦以来 長簪ヲ 数本差スシ

宝暦六年 印本ニ所載少女畫 原本 [illegible]

島田曲

如此鬢髪ヲ刻セサルハ大凡十二三ノ小女ト見エ無ルニ笄ヲ用ヒタリ是今世ニ為ザル所ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

其二 處女之畫

島田曲

当時ノ算或ハ直或ハ上ニ反リ

此處女ノ所為ハ筆油ノ如キ管末ヲ割リ廣ケ以テ鬼灯ヲ弄スル体ニ今世モ小女弄ヲ鬼灯実ノ種ヲ去リ空トシテ弄ヲ又今世ハ専ラ此空鬼灯ニ爪ヲ含マセテ歯ト舌頭トニ押シ鳴スコトニ爪ヲ鋼ルト舌頭ヲ働カセ気ヲ曳テ為ニ之

宝暦ノ印本 延宝中ヲ云ル書曰 延宝ハ誤ニテ元禄ナルベシ 我若カリシ時世上古風ニシテ江戸鹿子ノ肩裾摸様一尺八寸ノ振袖ニ紫裡ヲ随分ノ流行トセシニ今時三尺ニ近キ大振袖 緋縮メンノ裏ニ縫ノ流行ル世界ヲ云ヽ

国立国会図書館 タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

宝暦十三年印本所載少女之是亦原本
東工 江戸

左ノ二女ノ所為ヲ江戸
ニテノ「アヤトリ」京坂ニテノハ
糸取トナ戯シ番ノ如ク
手クヒニ鏡ヒ琴形 鼓形
目鑑形等二女各互相譲リテ
為ヤノ戯シ近年ノ小児稀ニ弄ヤ
ト雖モ不流行シ文化前等ハ専ラ
弄ヤセリシ
今ノ小児ハ都テノ
心成長ノ人ニ似タリ

今ノ云 高島田曲

今ノ云 男髷

島田髷

島田曲 宝暦六年ノ番ト僅ニ
形異シ
此三女各摎元結

男曲ノ小女 鹿子ノ
腰掛ヲ用ヒタリ番

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

宝暦六年刊本所載婦人畫 原本墨江戸

頭ノミ畫ス三婦
半元服ノ新婦

此髷今云片外シ
ノ原類
今ノ
京坂ノ
片等
ニ似タリ

今云島田崩

当時鼈甲或ハ無班或ハ黒班ヲ交ヘ描ケリ

等髷類

兵庫曲

髷名今世ノ名ヲ記ス宝暦ト今世ト其異同ノ有無ヲ考ヘズ

宝暦中婦人ノ風俗

宝暦十二年刊本ニアリ
原本墨江戸

島田崩曲類
此二婦ハ既ニ
歯ヲ染テ未タ
眉ヲ剃サル者シ
所謂今江戸ニ云
半元服ノ新婦

此婦女等髪ヲ結ベル
髷当時平髷ト云類
丈長ト云類 何レニテモアレ
愚按ニハ摎髷ノ上ニ飾ル
ノミ類

唐木数品
ヲ以テ造ルヲ
中央鼈甲
ヲ張ル等ノ
制シ
是ヲ生田流ノ琴
ト云テ今世江戸
更ニ廃セ
今江戸ニテハ山田
流ノ琴ヲ用
フルミ山田流ハ不造ルヲ素材或ハ
蒔繪ヲカリ菖蒲ヲ描ケルヲ
アヤメ琴トモ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

大略宝暦頃
鬢差ノ番
鯨髭制シ
上品ハ
水牛角ヲ以テ制ス

当時髱ヲ高クス故ニ此物ノ制ヲ更メ制ス

鬢張京坂ノ名 髭賓差江戸ノ名シ此器ヲ用フルヿ宝暦以来シト
或書ニ云リ二都共無ク或追考スベシ
安永二年茶番狂言ノ冉子ヲ世話ヤキ老母ガ詞ニ今時ノ女ハ鬢ハ差ノ
何ノ角ノト埒ガ明ヌナシ
四天王伶人櫻トナ院本曰ワシヤ鬢裡ト鯨ノノタシ見ヤナイト燈篭
鬢ハ出来又故ニ太戔シタナシ 節信曰鬢裏トハタボサシ張出ス鬢ハ差シ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

或書曰宝暦元年六月大坂ノ祭礼ニ島内ヨリノ透物ヲ出ス兼題
皆山名ヲ以テス中ニ婢捨山ニ擬スル妓名天満屋ノ梅ト云者價五両ノ鼈
甲ノ櫛ヲ挿スニヨリ衆目ヲ驚シ衆妓コレガ為ニ更ニ色ナシト云リ
僅ニ價五両ノ櫛ヲ賞テ奇トス当時ノ風姿衣服ノ製ニ至リ准
之テ想像スベシ彼梅ヲヌガ擬ノ秀タルヲ賞テ時ノ人時様謡
ヲ作ル「梅ハ北野ノ天神サンノ御神木見事ニ咲トサ」ト謡フ事
ラ行レタリ　近年モ此唄及ビ替唄ヲ作テ毎ニ行レシトシ

或曰宝暦以来燈籠鬢ト云形行ル其制髪ノ毛ヲ透スレ蓋両鬢ヲ
張出シテ髪毛ヲ疎ニスルレ　故ニ前ニ云如ク当時以来鬢ヲ張ヲ用ヒシレ
又鬠子鬢何レノ年ニ行ル歟　燈籠鬢ヲ行レテ鬠子ビンモ廃ハ歟宜ク
追考スベシ
鬠子鬢ハ鬢毛多ニ不透ヲ云　居行子ニ云　女中ノ髪モ鬠子鬢ハ
鳥籠鬢ハ　鬢ヲ張　添櫛　添釵　入レ髪　服鬢ハヨトイヒく流行事
妻リ行ニく　守貞曰鳥籠鬢ハモ鬢毛ノ透スノ謂ナルベシ而モ燈籠鬢ト
一物ニ物歟　又ハ異ハ制　故ニ名ヲ別ツ歟
寛政享和　思出岡子ニ云　女子宝暦迄ハ日髪シ　其比髱(タボ)差出来程
ナリ此ミ燈籠鬢流行リ　鬢ハ差ヲ用ヒ持髪トナル日髪ト持髪
ト半々し近年張ヌキ髱入出来油多ク付ケ幾日モナリノ持
髪ニスルヨリ女髪結ト云者出来朝鮮櫛笄以前ヨリアレモ
鬢ハ差ト同時ヨリ専用トナリ今ハ水櫛ハ名ノミニノ陶器ノ鬢盥求

メモ賣家ナシさし守貞ハ日髮ハ日梳持髮ハ一梳數日ヲ保ツヲ云

旭之櫛朱漆ノ木櫛ヽ宝暦中ヨリ行ル

象牙ノ笄是亦同時行ル

明和ノ印本ニ女ノ風俗ハ天地開ケテヨリ今ホド美麗ナルヿハナシ

アタマノ差物ハ韓慶ヲ欺キ水引丈長ハ地蔵祭ノ盛物ヨリスサ

マジク髮ノ風ハ雀錦祥女ノバラヤシ十八髮ハバラビン二重髻燈

籠髮ハ様々ノ名アリ云ヽ守貞ニ櫛笄ノ惣名今モ上京坂称々

弁慶ハ劇場ノ扮ニ鎗熊手槌等七器ヲ負フ俗ニ七ツ道具ト云ヽ当時

髮飾ノ多キヲ云ヽ丈長ハ昔ノ平髪會シ盛物ハ供物ヲ云ヽ七月廿

四日大坂諸坊条々ヽ其供物ノ飾ニ比スルシ髪曲名雀以下燈口ウヒン等

今世其名モブ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

安永中江戸上處女ノ容貌

島田髷

今世江戸ニテハ
高髷島田シ
京坂ニテヤツマト云ノ
形ニ似テ央高シ
鬢耳ニ離レテ高シ

帯文庫ニ結ビ垂レズ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

安永頃ノ印本物ハ草曰女ノ簪ノ模様ニ忍ブ花ヤウノ物ハ古風ナレドモ
ニホラシ青龍アナドモ急度ヒテ畢ミナケレド近頃ハ珍シキヲ好ミニノ
纏 鉄棒或ハ臺所ノ具山葵卸シナドニ至リテハ嵌畢ニナシ

安永中婦人ノ風姿 原本重工江戸

此髷名未考
蓋今世ノ片外シノ
原ナルベシ然リト雖モ片ハヅシ
ノ名ハ古ク聞ヘザル歟是ヲ
算曲ト云歟又今ノ丸曲ハ是等
ヨリ成ル者歟
又如畫髷ハ高ク耳上ニ放レ名形
京坂ニモ有々髷形モ相似タリ

又曰三都ニ大略安永以前婦女髪形種々ニ弘革シ
天明以来丸髷ヲ正風トシテ今ニ至ル歟安永以前更ニ丸髷ヲ見ズ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

今ヤ島田ト崩

今ヤ

髷形ノ似表ニ一番ヲ見ル者ト日ク前モ此一番髪ヲ出シテノ髪ヲ出サズ此原本折々ニ有ル其他ニハ未見ルヲ

曲亭、随筆ニ幼キ時ヲ指テ女子ノ髪ニ小枕ヲ入テ根ヲ一ツニシテノ髪ヲト髪トヨリ撥出シ髪ヲトヲ物ヲ今ノ髪ヲ長リシタレドモ髪ヲ結ハズ今世モ御殿女中ハ假髷ナレバ撥安永天明ヲ指テ云シ

大略文化以前ノ假髷ニハ此撥巻ヲ專トス今人ゴレツタムヒズ著ニスルガ如シ

蓋シ撥巻ノミ他形ノ假髷ヲ許サズ

寛政末ヨリ享和及ビ文化ニ至リ婦人一番原本裏ニ一番並ニ江戸

寛政末年

今製ノ丸曲ノ始メシ

丸髷

当時江戸未タ髪筒刺ヲ製セズ

文化初年

丸曲

寛政七年十返舎一九作ノ戯作ニ吉原花競ト

丸曲ノ名古ク延宝ヨリアリ櫛夫ヨリ古キモアル故未聞ク延宝四年重吟撰續連珠ニ丸曲ヤウヅヒノカゲノ柳ガモ藤カヅラニテヤ丸髷柳髪可道

左右先ニ寛政髷形ヲ図シ然モ左ノ文言ニ依ル時ハ勝山シ今京坂ノ勝山ノ如クニ江戸何比ヨリ此形丸曲トモ勝山ノ名ヲ襲ノ歟

春朗ノ風俗考ニ下番ヲ出シテ明曾ノ丸曲トス今江戸ノ丸髷曲トハ形大異ニテ上古娼婦ヨリ丸髷ト云ニ似タリ兩輪トモヲ笄曲ノ一名トス故ニ丸輪トモハ寺島ヲ延宝頃寛政ノ如キ丸曲無クテ勿論シ丸輪ノ形ヒシ

詞書ニ曰
ワサトナリマヨキレテ
客ノ膝ヘアタマヲスリ付ル
心ハ其客ノ丈売ニテ勝山ノ下ガ結デアルヲ見セルツモリ客ハ心ニ叛ニツトモ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

寛政頃女ノ髪結裁ト板メ縮緬價十六錢ヨリ百文ヲ極トス寛政府命後紙ヲ彩リ縮メ其皺縮メニノ如ニ号ケテ縮面帋トス婦女用ヒ田舎ニハ雑遊ノ幕ニ用ヒ近年発ス無比天保比迄田舎ニハ用ヒ故大坂ヨリ製シ賣リ今世髪哉金分許寛政比女ヲ二人稀ニ一度百文

享和二年刊本芝居訓蒙画彙所載 假髪

丸髷

世話丸髷

世話丸曲トハ曲形アルニ非ズ狂言ニハ世話時代ノ二種アル故ニ世話女房ニ用フル丸曲カヅラトハ義シ当時市中ノ丸曲ハ専ラ平元結ヲ以テノ前髪ヲ結ヒシナルベシ

今世丸曲婦 武人ノ妻婢ハ前髪ヲキラズマキ元結ニテ結ヒ市中ハ結バズ無モ切前髪シ昔ニ及スニ似タリ

武人曰鼈甲享和中價次第ニ尊リナリシニヨリ馬爪ニテ櫛笄等ヲ贋造ストシ当時馬爪製ノ始メカ

享和及ビ文化初年處女扮 原本重工江戸

島田髷

当時江戸未廃ニ髪差也

芝居訓蒙画彙所載島田曲髪

ドビクハ自額ニテ他ノカツラノ如ク額帽子ヲ用ヒズ自髪ノ額ノ如シトキ意シ此製ヲ羽二重カヅラ圧ヲシ今世モ丘リ

芝居訓蒙 畫彙ニ所載

鬘ナレ𪜈 粗当時ノ風ヲ見ルニ足ル

角山

此膝山 差髪ノ二ツハ今ノ吹髷ニ似名歟

さしづと

今制ニ似タリ

横兵庫

傾城ノ横兵庫ト二種並ニ行ヘル歟

ちぶめ

まれたて

雀 三ツ髪 竹ノ節等未詳

三ツぢと

竹の

此三畫ハ背面ニ

当時江戸ニテ両輪ノ名アリシト見ユ 然モ今世ノ割ガラコト云形ニ似タリ 京坂ノ両輪トハ大ニ異ヘシ

あんご

忍ハ百石噺アイゴハーー

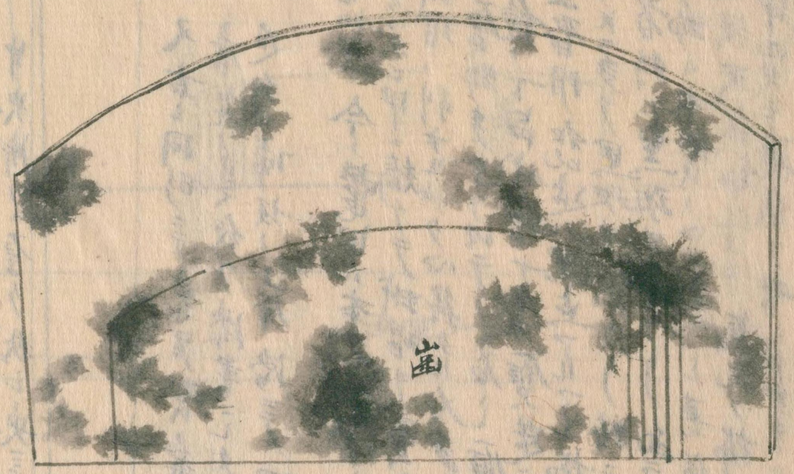
上巻ハ助六ノ情人ニ

上巻

揚巻 忍 愛子ハ其格スル人名ニテノ当時ノ婦女ノ曲風ニ非ル歟 未考

文化中 鼈甲製

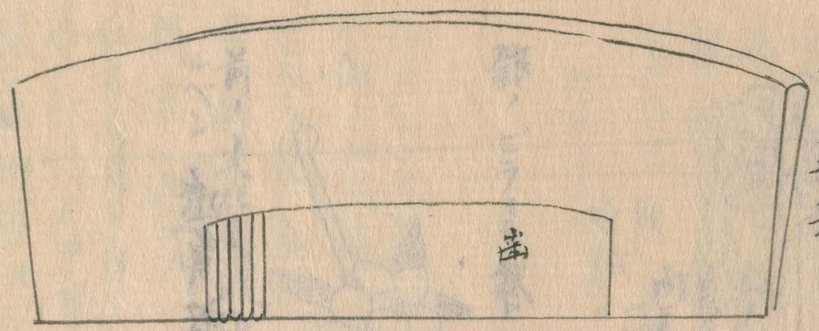
櫛笄 𪜈ニ大形ニシ 上京坂ハ文政中以来 僅ニ厚ク又僅ニ小形トナリ 江戸ハ文化末ヨリ薄キヲ廃シ断厚ク今世ハ大畧厚キヲ四分

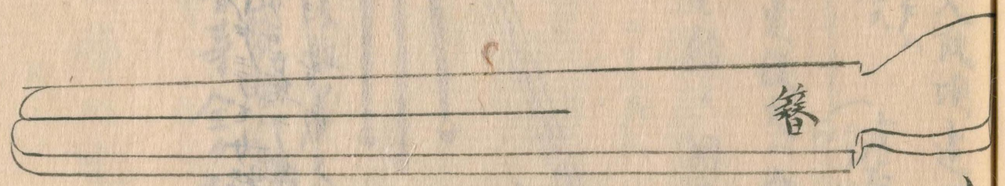


守貞実家浪華石原氏所蔵

畫ノ如ク黒点アリノ蓋今製白甲ノ物ハ数片ヲ合テ製ス 此櫛ハ全甲ヲ以テ製セリ

文化中ト雖𪜈黒点アル物ノミニ非ズ全ク白甲ノ物モ多シ 白甲製ハ黒点ヲ斬去リ製スシ





京形ノ簪ト云ヒ真ヒ厚サ一分半バカリ大サ一寸ノ如シ蓋大小アレヒ真大抵ノ二又一寸ヲ見ルト真物トハ異ルカアリ一寸ニハ甚タ大形ニ見ユルシ

鼈甲貝ニ郡ヒ薄ク厳ニ雑ヒ一寸ニ煩シク観官鑒ク候言ハ笄ニテモ小皆ノ如キシ

他面倣ヘ

下ノ如キシ

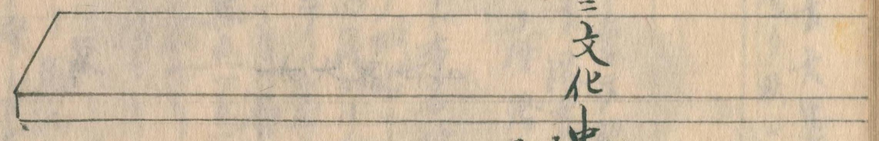
色ニ漆造物始メハ表裏ニ面ノ二ミヲ色ム而朱表裡及ヒ口ヒニ真珠ノ紙ノ如キ薄キヲ以テ色ニ包ミ又故ニ四方色ノ掃笄等ヲ

笄　文化前笄長大抵一尺二寸幅五分両端ノ厚ノ厚ク秋ニ央ニ厚ノ四分餘バカリ

又右ト同形ニテ象牙製ノ笄端ヨリ一寸バカリ下テ唐花ノ彫紋ヲ漆書ニシタル両端両面ヒ四枚アル物モ近年婦女ノ髪ニ挿ミテ今ニ藏セリ

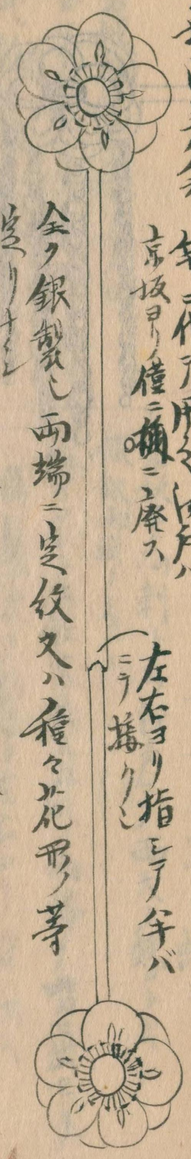
前ニ云ヒシ如リ今鼈甲ハ本名玳瑁シ鼈ハスッポンシ一名ヒ玳瑁ヲ禁止アリシ後商人ノ采ニ甲ニ擬ケテ玳瑁ヲ賣リヨリ今ハ多ク玳瑁ハ別ナル如ク心得タル人多シ於茲真ハ玳瑁ニ故ニ賤物多キヲ以テノ名シ賤物ニ擬ヒ非ス一種ノ下品ト玳瑁ヨリ賤迭ニハ牛角ヲ作リ蓋宝香明和比ヨリ黒点アルヲ掃笄ヲ作リ特ニ蓼ト見ユル者特ニ黒斑ヲ描ケリ然ニハ当時上製ニ黒斑ヲ去ヌヲ制ヌスヘシ多ク白甲ノミヲ以テ上制トスルヨリ文政末ヨリ天保初比ヨリ馬爪ノ掃笄等ヲ薄キ鼈甲ヲ以テ色ニ製ス故ニ甲賈モ真偽ヲ弁ヒカタキ止ニ模造セリ今世モ専ラ流布ニ似ヒ一名甲也ヒ云シ二四ヵノ重サ三ヲ金二ニ当シ真物ハ重サ一分ニテ価銀二四匁ヨリ百二三十目ニ至ル又嘉永中雞卵ヲ以テ横造スル者アリ真偽ヲ分チ難シ

追書ハ 或書ニ文化中江戸ニテモ女粧専ラ上京坂ヲ学ビ目ノ周リニ淡紅ヲサシ鼻ヲ濃粉ニシ髪ノ結ヒ爪モ上方ヲ学リ
コヲ書載タリ



喃

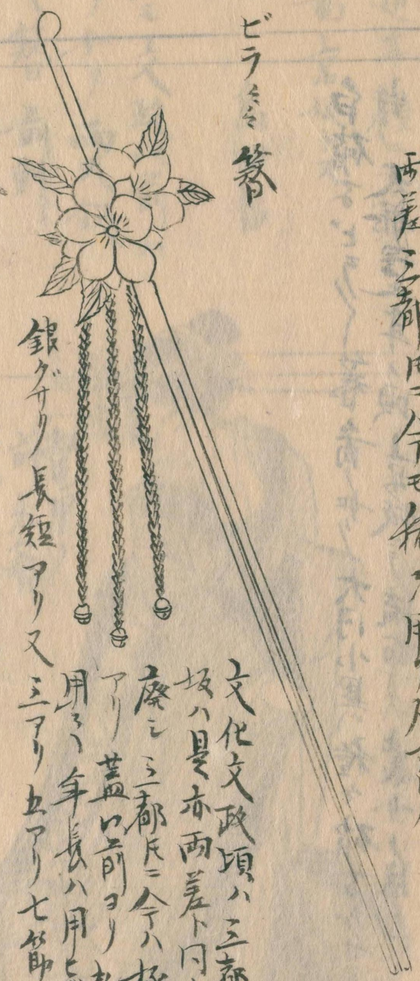
京坂両差簪 リヤウザシハ文化文政頃迄用ヒ蓋三都氏ニ畧ス藝ノ時ニ
笄ニ代テ用ヒ江戸ハ
京坂ヨリ僅ニ喃ニ廃ス



左右ヨリ指シテ斜バ
ニテ接クシ

全ク銀製シ両端ニ定紋又ハ種々花形ノ等
定リナシ
両差三都氏ニ今モ稀ニハ用ヒ人アリ

銀ノビラ〻〻簪



文化文政頃ハ三都氏ニ流布ス上京
坂ハ是亦両差ト同ク江戸ヨリ後ニ
廃シ三都氏ニ今ハ極テ稀ニ用ヒ者
アリ蓋口前ヨリ新婦上處女ノミ
用ヒ年長ハ用ヒズ
銀グサリ長短アリ又三アリ五アリ七節モアリ

前ノ文化文政中臣オノ上處女藝服ノ面ニ両差モビラ〻〻簪モ差リ合セ見
ルベシ 文久中ニ至リビラ〻〻簪等全ク廃ス

白硝子ビラ〳〵簪 番ノ如リ 大同小異ハ種々硝子グサリ 七節或ハ九節
許リ 天保二三年ノ頃 京坂ニテ流布ス 處女ノ用シ

文化文政中 江戸ノ處女 褻服ノ番 今俗褻ヲ不断著ト云 フダンギト訓ス

京坂ハ今ニ至リテモ
簪等数ケヲ挟テ
髪飾最モ華ニ
蓋近年僅ニ不華
此番 京坂トス
島田髷

江戸モ文政以前ハ
此番ノ如ク 両天釵
ビラ〳〵簪 前刺
背ヒ刺 前後差ハ ベツカウ
掃等ヲ挟ミ
紅文長等ヲ用フ如此飾
今江戸更ニ廃テ處女ト雖モ 掃一 中刺簪一 婦ノ弁ノ所ニ用フ 前差簪一ヶ
銀ノ頭掻簪 ホソキ小形ヲ用ヒ其他ヲ挟ズ

京坂ニテ両刺ト云 江戸ニテ両天ノ簪ト云
銀釵両頭ノ者シ
掛オロシト云 紅文長三五枚ノ両端ヲ背ニ出セリ
前髪ノ末ヲ髻ノ左右ヨリ背ニ出ス
京坂ニテ振分式ハイタヅラト云
鼈甲ノ前差簪
花簪ニ絡ヲ下ル
左髪上ニアルハ銀釵ニ瑶珞
アル者シビラ〳〵簪ト云
衣服表紬縞
裡黒サヤシ
黒繻子半衿
アルハ褻ノ証
帯黒繻子ニ
緋鹿子縮
メンノ紬物
ヲ継タリ
同 文庫
ムスビシ

今世京阪中民之處女禮晴之扮

衣服ハ縮緬ノ裾模様下着ハ白綸子或ハ緋縮緬襦羊ノ衿ハ白リンズ帯ハ段織ノ紙子シ

掛ト前差簪ハ鼈甲ウシロザシハ銀釵

島田髷

蓋島田曲ハ江戸ト其形異ナルヿナシト

雖ヒ髷ハ二ハ髷ハ張ヲ用ヒ髷色ヲ高クス

又京坂ノ島田曲ニ縮緬裁ヲ掛ル者必ズ髷上ニ結ヘ江戸ニテハ或ハ曲上ニ結ヘ或ハ髷ニ巻テ背ニ結ヘ髷上ニ不至者アリ

又三都ヒニ禮晴ニハ鼈甲簪掛ヲ用ヒ略褻ニハ木制漆掛ニ蒔繪ノ物簪ハ銀鍮蒔ヲ用ヒテ鼈ヲ用フ者稀ニ婦人モ准ヘ

島田曲

京坂ノ少女十三四歳以下ノ者ハ必ラズ畫ノ如クニ緋縮緬裁ヲ以テ前髪ヲ結フヽ

江戸モ文政以前ハ同前近年少女ト雖ドモ前髪ニ縮緬蒔ヲ結ブヿ更ニ廃セリ

文政頃處女島田曲ノ髷背ニ用ヘ白青赤紫蒔ノ縮緬小裁ヲ交ヘテ

菊花或ハ鶴蒔ヲ製シタリ

此コトク六ツ折ニシテコレヲ紙ニ貼シ背ニハ千種紙ト云ヲハリ又針ノ如キ足ヲ付テ髷ニ刺テ飾トス江戸ハ不用ヘ京坂モ今ハ廃セシナルベシ

京坂ノ新婦ノ既ニ歯ヲ染テ眉末剃サル者往々嶋田ニ結ハズ
勝山曲ニ結ブ者アリ其形江戸ノ丸髷ニ似テ聊カ異ヽシ蓋天保
前ノ丸曲ハ前後ニ長クス京坂ノ勝山粗似ヽ而又同カラズ

勝山曲

勝山ハ前後長ク背ノ方高クス
又勝山曲ノ新婦鼈甲ノ櫛笄簪ヲ用ヒ
或ハ又銀ノ両差釵ヲ以テノ専ラ笄ニ代ル

寛政ノ条ニヨレハ江戸ニテモ勝山ハ今ノ丸曲ニ似タリ

勝山髷古畫

明暦万治中江戸吉原町ノ名妓勝山ナル者
始テコレニ結ブト云リ勝山ハ其始ハ湯屋賣女ニ
後ニ吉原ノ妓トナル此妓専ラ異風ヲ好メリ
或書ニ考古ニテノ此畫ヲ勝山曲トス其当否ヲ
未考

世事談曰元禄ノ頃吉原ノ勝山ト云女結始ニシ文島田ト云風ハ東海道島田宿
ノ女此風ヲ常ニ結ケル夫故ニ此名アリト云リ詳ナラズ云々

今時京坂市民之少婢晴服ノ扮
衣服ハ空色紬ノ紋付同裡縹サヤ或ハ縹絹帯黒繻子等ニ
蓋豪富ノ少婢礼晴ニハ振袖ヲ着スシ是亦絹紬等ニテ
縮面等ヲ許サズ

奴髷
ヤツマワゲ
ト云
江戸ニテハ
高島田ト云

三都ニ上處女及ビ娼妓モ
往々コレニ結フ近年江戸
ニテハ更ニ廃セリ京坂ノ
少婢ハ必スコレニ結ビテ
他形ヲ聴サス又白元結
或ハ白紙ヲ髷上ニ結ビ色染
紙及ビ縮面等ヲ許サズ

抱ヘ帯縮緬ノエゴキ
ソウフクロト云粧飾袋惣嚢袋
主人ノ妻娘ノ粧具ヲ納ム所ノ
筥ヲ錦ノ嚢ニ納レ組緒ヲ結ビ
禮晴ノ時少婢長婢ヲ撰バズ
携ヘテ従フ京坂吉風ヲ
存スノヤナリ江戸ニハ従来不用々

今世處女ハ三都ニ專ラ島田髷ニ結ヒ上京坂ノ婦ハ両輪一名笄髷
ヲ正風トシ（坊間ノ）勝婢ハ丸輪曲ヲ正トシ江戸ノ婦妾勝婢ニ丸髷ヲ正トス
蓋両輪ト丸曲ト東西ニ分ツ大略参河国岡崎駅以西両輪乃チ当
駅両輪曲ノ婦十人ニ九人丸曲十人三人吉田駅以東ハ丸曲ヲ專トス当駅
両輪稀ニ丸曲ヲ專トシテノ大概十人ニ九一反也

京坂ノ婦ハ髪ニ丈長紙（古ノ平元結紙前ヲ出ク白ヲ專用トス
外ニ金式ハ銀丈長ヲ用ヒ他彩ヲ用ヒス
而已ヲ用ヒテノ縮緬等ヲ更ニ用ヒズ上處女ハ縮メン反ビ諸紙ヲ用フ
婦ノ金銀帋ヲ用フルモ新婦ニ
年老テハ唯白ノミ
用ヒ
弘化以来江戸風ヲ傳ヘテ若キ婦ハ往々縮緬等
ヲ用フ

京坂ノ丈長紙大略幅二三分或ハ四分許ノ厚キ紙シ或ハ単或ハ黒々
並ニ不折シテ用ヒ
江戸ノ丈長紙ハ五六分幅ヲ四ツ折ニシテ用フ折テ用ハ昔ノ平髪曾
ト同製シ昔ノ平元ユヒハ薄様帋ヲ折テ用ヒ

髷ノ字 京坂男女ニ「マゲ」ト訓ズ江戸ニテ「マゲ」ト訓ス

髱ノ字 京坂男女「ツ」ト訓ス江戸ニテ「タブ」「タボ」ト訓ス江戸モ長ヅト式ハ葵ヅトニハタボト訓セズ

鬢 前髪等三都日訓 因云頭京坂ノビスジ吉戸ニテハユリト云

結ノ字 京坂ニテハ正略ニユウト訓ス 正ハ素ヨリニ而テノ男女及伎ニハ碎言ヘバ其ニユフト云

江戸ニテハ正略ニハユウト云 仮髪告ノ類シ ジレツタムスヒ 之時ハムスブト云「コウムスブ」ニ結ノ字シ讀者其ハンシノ察セヨ

今時京坂ノ婦人禮晴之扮

中民以上ノ婦シ上衣 殿小紋一名憲法小紋ト云 蓋其実ハ地ヲ染テ小星ヲ白ニスルシ 都テ重々者筆帯ヲ省テ白地星点ニスルノニ看人勿思誤焉

中以上ノ婦式正ノ時ハ専ラ丸帽子ヲカムルシ

両輪髷 リヤウリト訓ス 一名笄曲

抱帯ノ結目

京坂ノ婦皆必スコレニ結フ

江戸ノ丸曲ニ比ス 因云髷ノ字

京坂ニテ「ワゲ」ト云 江戸ニテ「マゲ」ト云

帯ハ縹繻子式ハ幅倫ノ類

上着下着ニ縮緬ノ引返シ裡シ下着ハ中形染シ又礼晴ニハ無地染ノ家紋付ヲモ用フ小紋ノ紋付無地ノ次トス

又世書肖像専ラ下着一領ノミ描ケリ是亦筆帯ヲ省クノミ

初冬、季春大略下着一領 中冬ヨリ中春ニ至リ大略二領ヲ中サネテ上衣ニ三領トス

三都ノ婦大約年世七前帯前結ニセズ昔ニ結ブ

京坂ノ婦女共ニ前髪畫ノ如ク囚形ニ分チテ而モ大シ近年断リニ小形

前髪痕

又老少共ニ前髪ヲ斬ズコキ元結ヲ以テ結

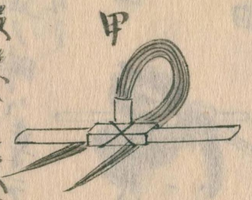
又江戸ハ大約廿三五才以後斬リ

追書ス 嘉永初ヨリ京坂ハ前髪ヲ前ニ押出シ又高ク立ル サズトカリ

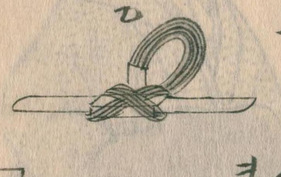
又京坂モ前髪先年ノ高ク前ニ押出

両輪曲ハ先ツ髻前ニ笄刺トカヲ結ヒソヘル 笄サシハ厚紙ヲ以テ筒ニ制ス 江戸ニハ不用ナリ

次ニ髪ヲ背ニ曲ゲ髪末ヲ二ツ分チ笄挟ニ巻キ収メ次ニ両端細キ假髪ヲ曲上ニ累子横ヘ輪トナシ其端モ亦



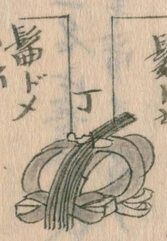
甲



乙

丙

再ヒ笄刺ニ巻収ム又其ハ次ニ短キ假髪以テ前ヨリ上ニ累子小簪ヲ以テ二輪相累ル上ニ留ル小簪ヲ曲止メトカ短キ假髪ヲ掛前髪又斜ク前ヲ上ニ又一トカ



丁

カケ前髪トカ

髷ドメトカ

自髪ノ竪輪 假髪ノ横輪

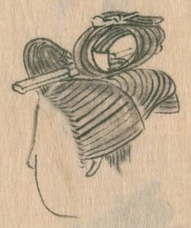
縦横二輪相累又故ニ両輪トカ

但娵ハ自髪一輪ノミ

髪末ノ巻様尊ク

両輪髷

背面畫



嘉永初ヨリ前髪如此高ク前ニ押出サズト聞ク

二番目ニ直凡三寸

鉄線紙巻黒

又ハ京坂髪ヲツト甚タ高クシテ故ニ江戸ノタボサレトハ形異シ

惣輪トカ

文化文政中用ヒ今ハ廃テ用フ人ナシ

髻ヲ小輪ニ通シ髪ヲ此上ニナフ

ツトイレ

日一種

ツトイレハ江戸ノタボサシト同リ髻ノ背ニ当テ燈心押ノ手ノ如キ物ヲ髻ニ結ヒ付ル

髪張

京坂ニテハビンハリ江戸ニテハビンサレトカ 鼈甲或ハ銀製モアリ

京坂ハ普通ハ針鈎紙巻黒漆シ

今モ或正晴畧襲共ニ専ラ用ヒ近年ハ江戸ニ倣フテ不用モアル由ナレ共不用人稀シ

髪張春明カ凡俗考ニハ明和ニ始リ寛政ニ廃スト云ルハ詳カナラズ
愚按ニハ三都ニ宝暦以来後前番宝暦ノ髪ヲ見ルベシ
又江戸ハ寛政頃ニテ今ハ婚礼ノ外ニ用ヒズ御殿女中ハ褻ニモ用ヒ
京坂ハ今モ老若婦女礼褻用ヒテ炊婢モ不廃ニ
又江戸ハ寛政中ニ廃セシガ天保中再ヒ専用ヒ近ヒ須臾ニシテ又廃シ
今ニ至テ用ヒズ天保十年頃ノ事ニテ一ケ年バカリ用ヒトシ

前笄髷

サキカウカヒト訓ス

前笄ハ専ラ新婦コレニ結フ　歯ヲ染メ眉ヲ剃ルト雖ニ大約三十未満ノ婦ハ往々或ハ両輪或ハ前笄ニ結フ島田曲ノ前ニ假髪ヲ巻タルニ大概江戸ノ島田崩ニ似タリ島田崩ハ掛前髪ヲ用ヒズ前笄ニハ両輪ト同ク用ヒ又江戸ノ島田崩ハ新婦コレニ結ハズ専ラ賤業ノ家婦ノ四十以上ノ者コレニ結フ

勝山髷

再出ノ誤シ　故ニ畫セズ

同　古　畫

明暦万治中江戸吉原ノ名妓勝山ト云モノ始テ結ヒ勝山始メハ湯屋賣女ニ此女異凡ヲ好ミ始ルト云リ或書ニ古ノ勝山トス守貞其ハ是非ヲ知ラス

勝山曲ハ京坂ノ新婦既ニ歯ヲ黒メテ眉ヲ剃サル者往々コレニ結フ或ハ島田ニ結ヒ或ハコレニ結ヲ蓋江戸今世丸曲ノ一種ノ名シ形丸曲ノ大ナル者シ京坂勝山ニ結フ新婦等礼ニハ笄ヲ用ヒ略褻ニハ両差簪ヲ用フ両差江戸ニテ両夫簪ト云

又京坂モ武家及ビ巫醫等ノ婦ハ往々江戸ト同ク丸髷ナル者アリ
蓋髪ノ等ハ両輪ニ同ク唯曲ノミ丸ニス又工商ノ妻ハ更ニコレニ結ズ

又京坂ニモ片笄曲アリ江戸ノ片ハヅシト同意ニシテ其形異シ江戸ノ
片ヅシハ左ヨリ右ニ回リテ匍匐シ京坂ノ片笄ハ匍匐セスシテ立ツ
蓋此片笄曲市民異風ヲ好ム者或ハ巫医等ノ婦極テ稀ニ結者アリ
ノミ只京坂ニモ此形非無ヿヲ記ス

片笄髷

又京坂士民夫ニ後ルノ後家寡富ハ茶筌髪中以下ハ島田曲シ島田
モ形自ラ處女ニ異ナル所アリ又後家ハ縮メシ彩帋等ヲ用ヒズ白紙ヲ
シゴキテ曲ノ元結上ヲ結ヒカクスノミ又喪中ハ處女老婦共ニ島田曲ニ白
帋ヲカクル而已

茶筌髪

後家
島田

後家ト喪中ノ婦女ハ笄
及ビ笄ニ代ルノ簪ヲ用ヒズ
梯簪ハ用ク蓋簪モ銀釵
ノ髪搔ノミ故

近世京坂婦女髷名 ヨコバヒ 両輪 サキ笄 サツカウガヒトキ 兵庫 勝山
三好曲 片笄 オシドリ 勝山クヅシ 紫若曲 忍ビ返シ ヤツマ島田
本銀杏 ウライテウ カゴ島田 タテ兵庫 横兵庫 ナブセ両輪
又キ出シ両輪 平一両輪 ナセ 向フナセ 其名惣テ四十四五名アリ同時ノ
作 女郎花浪華ノ穴ト云本ニ番ヲ載タリ云々以上街噂ト云小冊ニ所載ナリ
末タ浪華穴ヲ見ズ得ヘテ後日番ヘト欲ス因ニ紫若ハ江戸女形俳
優岩井半四郎ノ二男シ

又京坂四ノ老婦處女氏ニ髪髩ヲ出シ両輪以下種々ノ曲ニ結サル時ハ髪髩ヲ製セズ唯前髪ノミヲ別チテ左衝ノ如ク假結ス号テ「スキ髪」ト云

京坂ハ沐スルヿ稀ニテ白油等ヲ付テ精梳シテ垢ヲ去ル故ニ先為々ニテ或ハ時歴テ後ニ両輪以下ニ結ク其皆時ノ假髪ナレ氏或ハ常ニコレニノミ結フハ粗小戸ニ婦ノミ其意江戸ノ梯巻或ハシレウメムスビニ同クス

又因云京坂ニテ髪髩ヲ出サヽルヲ都テ「ヒツコキ髪」ト云

モタセ髪衝

京坂ハ毛巻ヲ已ツズ此モタセ等毛巻シ

街噂ニハイテウヲ載ス京坂テモ銀杏氏ナルベシ

髪曲ヲモタセト云髪髩ヲ不製ヲヒツコキト云如此假髪ノ惣名ヲ透髪ト云シモタセハ江戸ノイテウ曲ニ形同クス蓋江戸ノ銀杏曲ハ十一二歳以下ノ少女ノミ今モコレニ結ブ婦等ハコレニ結バス

因云京坂ノ處女ノ江戸ニ来ル者モ両地氏島田曲故ニ其形ヲ改メズ婦ノ適江戸ニ来ル者ハ両輪ト丸曲ノ大異ナルヲ故ニ其形ヲ改ルヿヲ得スレテ専ラ此モタセ曲ニ結ブ蓋江戸永住トナル者ハ丸曲ニ更メ結フ也

京坂モ島田及新婦ノ勝山曲等ニハ縮緬或ハ糸物其他モ用ヒヽレ尼両輪及先弁曲ノ婦ハ白丈長帋ヲ専トス稀ニ金シ赤等ノ名アル金或ハ銀ノ丈長紙ヲ用フノミ婢ハ少長尼ニ白紙ノ外ヲ更ニ用ヒズ蓋近年ハ両輪ノ婦モ縮メシ等ヲ用フ者アル由ヲ聞リ天保末迄ハ更ニ不用ヒシ又江戸ニテハ名ヲケテノ根掛ト云京坂無名歟

今世京坂ノ粧ハ白粉口紅尼ニ江戸ヨリハ濃ク粧フシ五尼口紅ハ青色ニ至ラズ又三都尼ニ處女ハ濃ク年長衛クニ於粧ス又人々ノ意ニ因テ不同又家風及生業ニ因テ不同シ

今世京坂廚婢褻服之扮

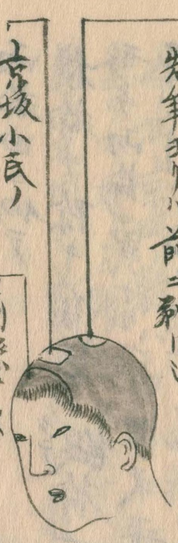
櫛ハ
イスノ丈櫛
等専用トス

近年襦半衿ニ黒ノ繻子或ハ縮メンヲ用フフ流布ス
妻婢尼ニ褻ニハ黒ビロウド衿ヲ専用ス久シク堪カ故シ
蓋天保底命後皆ク止マヽタリ今又復故スル歟
江戸ニテハビロウド衿更ニ不用ヒシニノ或ハ
廚婢等黒ハ丈ヲ用フ

丸輪髷

丸輪曲ハ
両輪曲ニ似テ
横輪ヲ除キ自髪ノ縦(タテ)輪一輪ノ上ニ掛前髪ヲ累子タリ又髪ハ及髪ノ
形チ両輪ニ異ナルヿナク又平日髪張ヲ用フ京坂廚婢ノミニ非ス惣テ
眉ヲ剃リ歯ヲ染ルノ勝婢ハ必皆此形ニ結ビテ妻妾ト制ヲ別テリ
江戸ハ坊間妻妾勝婢尼ニ丸髷同形ニシテノ無有差別也

前垂櫛三幅ニテノ背ニ合ス前垂ノヿ男股ノ
携ル具ハ京坂ニテ提桶江戸ニテ岡持ト云

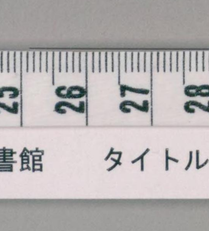


三都ニ髻ノ中ヲ剃ル画ノ如ク四形ニ蓋シ江戸近年髻ヲ高クス故ニ此中剃モ先年ヨリハ前ニ剃ル

吉坂小民ノ婦ハ往古画ノ如リ前髪ト髻ノ間ヲ横長ノ方形ニ剃ル者アリ江戸ニ此所ヲ剃ルヲ更ニ無ゾト思ヒシガ稀ニハ剃ル者アリ江戸ハ稚児同シ

今世吉坂ノ婦女唇紅白粉ヲ粧フ大概江戸ヨリモ濃シ又吉坂ノ娼妓俳優ハ坊間ノ婦ハ唇ヲ素顔モ白粉ヲ濃クス蓋近世ハ三都ニ坊間ノ婦ハ唇ヲ素顔ニテ往々有リ文化文政頃迄ハ三都ニ炊婦ニテアリ平日素顔他出ニ白粉スルモアリ吉坂ハ平日モ白粉濃粧セリト云リ

又吉坂ハ白粉ヲ濃リシ額際及頭ヲ除ラヌ江戸モ先年ハ如此今ハ除ラト雖ト十人ニ五人完ナラス頭ヲ際ヨリ除ラヌルニハ二本足ト云形アリ江戸ニテハ二本ヲ一本足ト云ヒ三本足ヲ二本足トモ云ヒ吉坂ハ決テ除ラヌル



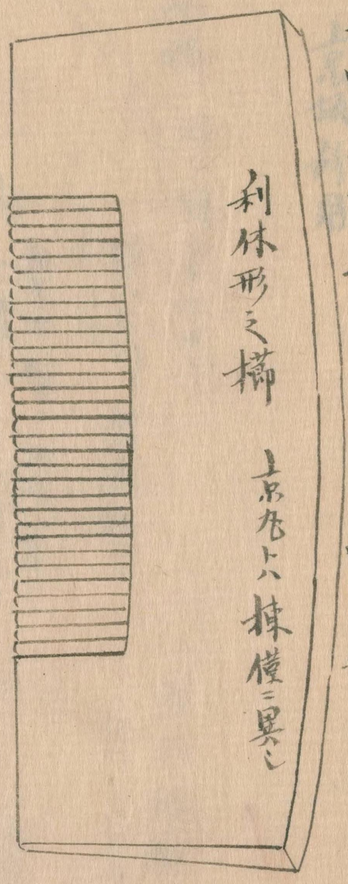
額ヲ推ク際ヲ除ラヌル

又唇紅文化文政頃ハ三都ニ極濃リマ故ニ青色ニ十ル男ヲ笹色紅トモ婬ナドハ下ニ墨ヲヌリ上ニ紅ヲヌレハ紅ヲ通リ悪ヘズ青色ニナル

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41
ガラス使用

髷掛ロケカケトス丸櫛両櫛等婦ノ髪ニハ白或ハ金銀丈長紙ヲ用ヒ
縮緬等ヲ用ヒズ島田髷ニハ緋其外縮緬及ビ丈長ヲモ用フ
蓋京坂島田ニ縮緬キレヲカクル髷背ヨリ曲上或ハ髷前ヨリ
曲上ニカケ髷ノミニ掛ク曲上ニカケサル者ナシ江戸ハ髷ノミニ
縮メレヲカケ曲上ニカケザルモアリ又髷背ヨリ曲上ニカクルモアリ又ハ
髷前ヨリ曲上ニカクルモアリ所詮京坂ノミ髷ニカクル者ハ曲上ニ至ル

今世嘉永中ニ京坂式正所用鼈甲製



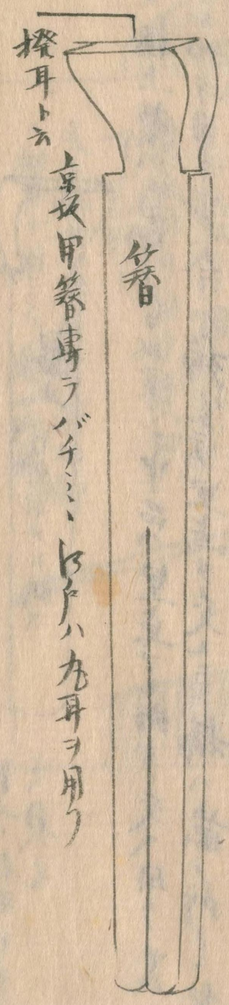
利休形之櫛　京丸トハ棟僅ニ異シ

式正時褻氏ニ櫛笄
髷止以上二具ハ各一
個ヲ用ヒ簪ノミ應時
テ数ヲ異ニス
式正ニハ専ラ前後左右
各一ケ凡テ四個ヲ用ヒ
髪ナキニハ銀釵等一ヲ
加フ

上褻ニハ簪前後各一ケ都テ二箇ヲ用フ或ハ前ノミ一ケヲ用フ背ニハ銀釵ヲサス
江戸ハ近世式正ニモ背ニ簪一ケヲ用フ文政前ニハ前ニモ狭之ヒガ天保以来廃ス

笄　長ケ　梶八寸　或ハ八寸五分　其他如畫　或ハ幅五分半

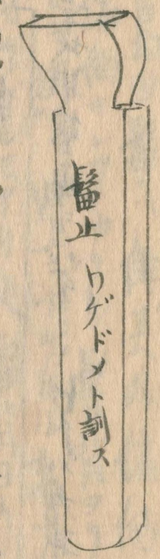
今世京坂ノ笄両端角シ　古製ハ両端円シ



簪

撥耳ト云　京坂甲簪専ラバチ〻〻江戸ハ丸耳ヲ用フ

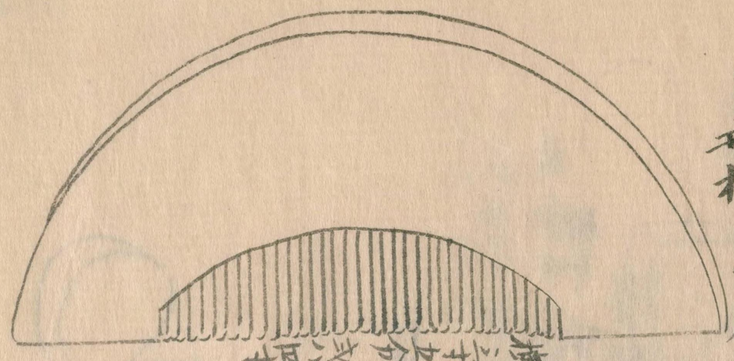
櫛以下四具凡ニ極上製ハ白甲ノミヲ以テシ中品ハ黒点アル物ヲ交ヘ用ヲ蓋古製ハ全體黒点アル物ヲ用ヒシガ今ハ稀ニシテノ黒点ヲ交ルニモ櫛ハ歯ノ所ノミ笄ハ中央髪ニ挟テヤクルト所ノミ簪モ下ノミ曲止中央ノミ皆専ラ髪ニ入テ不見所ノミニ黒点ヲ交ヘ極上製ハ全ク白甲シ



曲止ハ従来江戸ニテノ無用之具シ

同 京坂所用

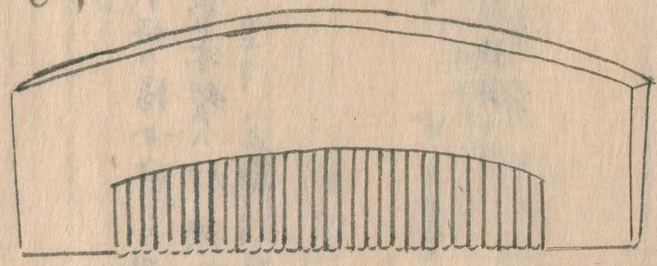
月形櫛 俗ニ鎌倉形ト云



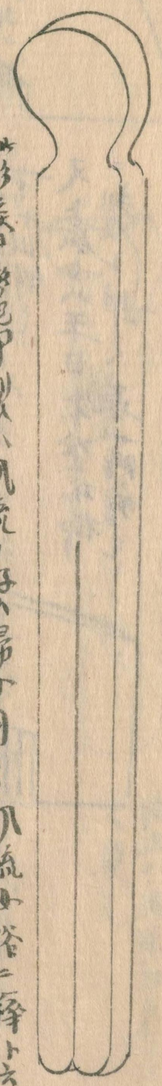
鎌倉形ノ謂其様ヲ知ラズ

鼈甲製ノ此形ハ専ラ全體黒点アル物ヲ以テ製ス黒点アル物ヲ今俗杢入ト云シ新婦ノ二十歳ヨリ二十以下ノ間専用ス二十以後用ス稀ニ二十以上ニテ用ス者ハ其大形ヲ用フ横四寸ナル物シ

又上處女ハ平日朱塗木櫛ニ製シ用ス無時繪シ



深川形櫛 京坂ニテノ名シ鼈甲ヲ専トシ又木櫛ニ此時繪モアリ

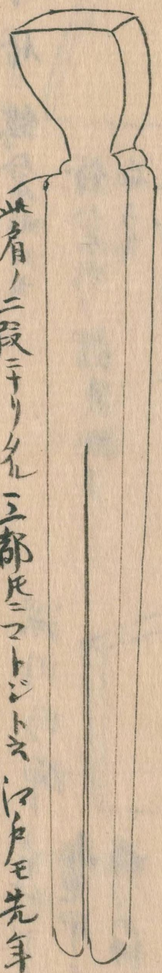


如畫 耳撥ノ四ナルヲ京坂三ノ江戸耳ト云

此形簪 鼈甲製ハ凡流ヲ好ヘ婦女用ヒ凡流女俗ニ釋ト云シ
又木製モアリ三都ニ櫛簪木製ハ伊須材シ蒔画ヲ描キ用フ
蓋木製ヲ畧ニ蒔ノ用ト スルヿ 三都ニ凡シ

髷止

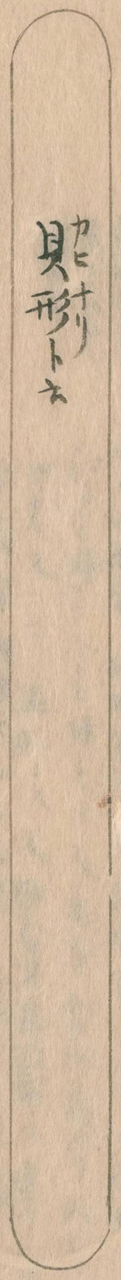
穀餅形ト云 中年以上ノ婦此髷止ヲ用フ
此形ノ耳撥ヲ撥耳ト云



撥耳 琴柱形

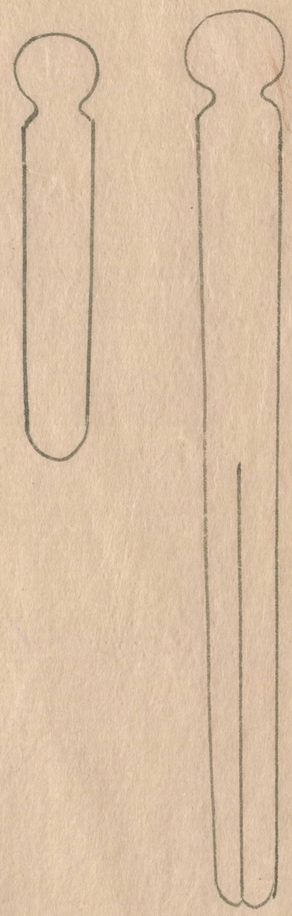
此肩ノ二段ニナリタル三都ニマトジト云 江戸モ先年ハ有シ
今ハ上廢シテノ稀シ

今世京坂所用木製蒔繪物シ 蓋畧蒔専用ヒ
木製ハ蒔画筆簪ヲ用フ時ハ円製月形櫛ヲ用フシ 或ハ他形ノ蒔繪
櫛ヲモ用フ 筆簪 曲止ニ大サ如畫
木製多クハ伊須材 金銀繪 花鳥 山水等種々



貝形ト云 カヒナリ

蒔繪物ハ簪モ一ケヲ用フ 月形櫛 筆 簪 曲止各一ケヲ四ツ揃ヒト云
木製ハ筆以下三貝ニ無稜シテ 如此マルシシ

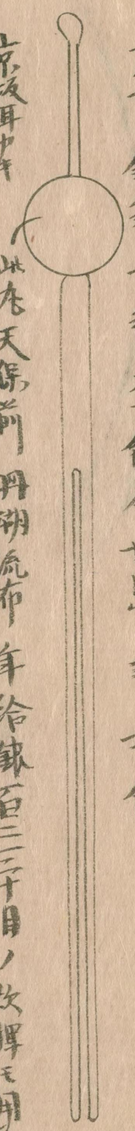


国立国会図書館 タイトル『守貞謾稿』 請求記号 寄別13-41
ガラス使用

31
15

京坂ノ銀釵

京坂ノ銀簪 古製 六寸餘 今世同ジ或ハ五寸餘



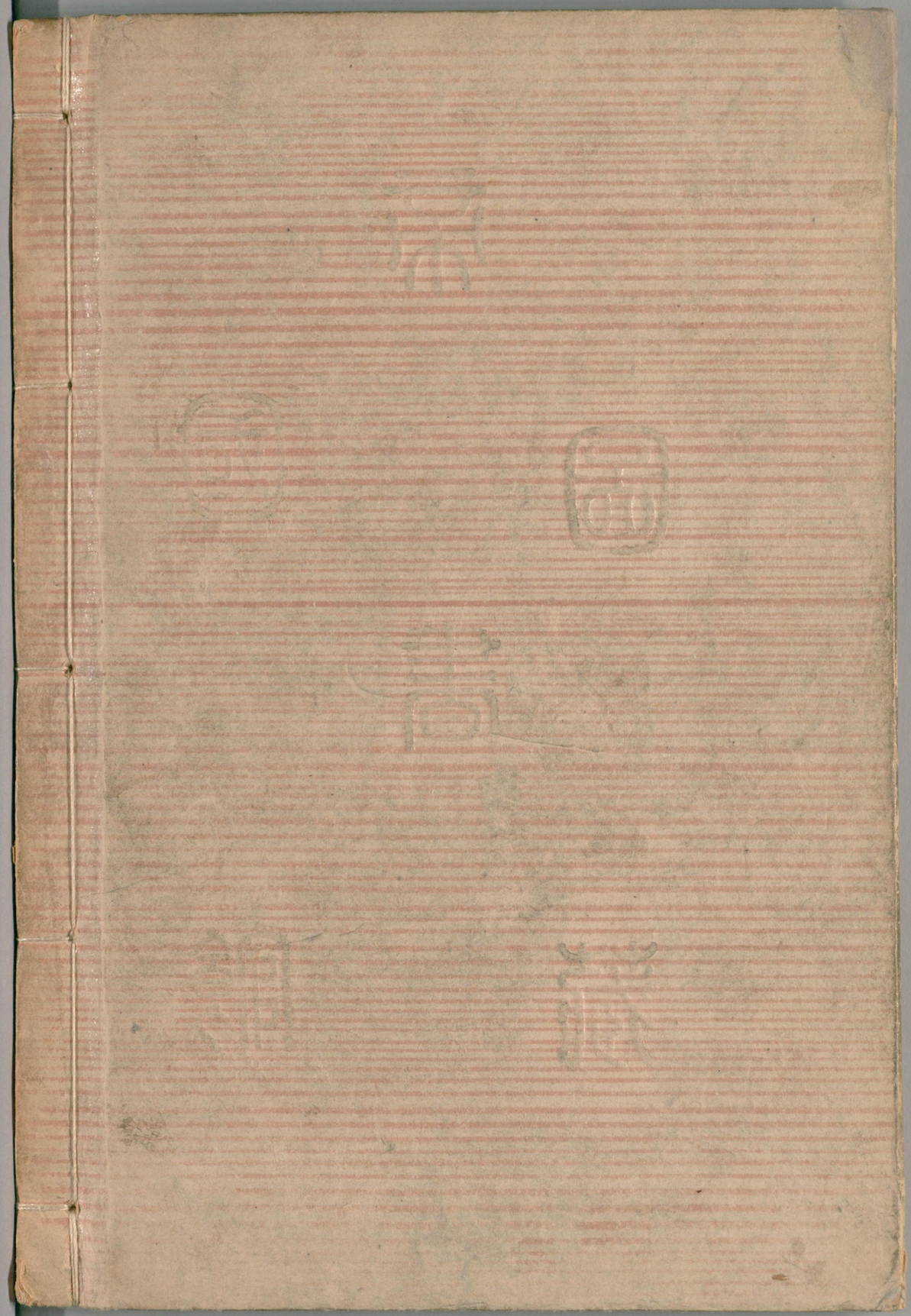
京坂耳カキ
長ク江戸ハ
短カシ

此ノ天保前 珊瑚流布 年給銀百二十目ノ炊輝モ用ヒ
江戸モ同ジ今モ用ヒ又近年金水晶玉ヲ流布トス
江戸モ又コレヲ流行トス 又砂金石甚流布ス 重サ一匁價
金三兩餘 珊瑚下品小丸價十五双 重サ一匁 銀十五匁ヲ
天保中ヨリ銀釵ノ表ヲ減金ニ製シマレニ珊瑚其他ノ珠玉ヲ付ケ或ハ銀紋或ハ
玉モ紋モ無ク物ヲ用フ減金ヲ流金ト云 銀ヲ素ニテモ用フレト流金ヲ流布トス

30
15

国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号 寄別13-41

ガラス使用